

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

2023年 5月 22日	
所属部局・学年	野生動物研究センター
氏名	白澤 子銘

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
宮崎県幸島
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
野生動物・行動生態野外実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
2023年 5月 15日 ~ 2023年 5月 21日 (7日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
幸島観察所、研究員鈴木氏、杉浦准教授、研究員前田氏
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果: 長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の実習では、行動生態学研究の基礎を学ぶことを目標に7日間にわたる実習を行なった。幸島にて二泊三日のフィールドワークを始め、都井岬訪問、観察所から徒歩数分の海岸林の散策などを行なった。
■スケジュール 5/15 移動、食料調達、フィールドワークの準備 5/16 幸島、ニホンザルの観察、近場の散策など 5/17 幸島、ニホンザルの観察、gpsと地図を用いて島内を一周 5/18 朝一で幸島から離脱、買い出し、洗濯など 5/19 都井岬訪問、買い出し 5/20 海岸林を散策、ミニ発表 5/21 移動、帰省
■幸島 1 日目は上陸直後からニホンザルの観察を行った。鈴木氏による餌撒きの過程とその後のニホンザルの摂食の様子を観察した。広い砂浜がある「おおどまり」には主群が鈴木氏の餌巻きを待ち侘びていた(Figure.1)。観察後半からマキ群が現れ、砂浜において2、3時間観察したのち、砂浜の奥の林にある小屋に宿泊した。のちに島で最も見晴らしの良い(あまり良くない)丘までトレッキングを行った。熱中症気味になってしまったため、キャンプに戻ってから寝込んでしまった。 2 日目は各々である程度テーマを決め、朝からニホンザルの観察からデータを取った。グルーミング(Figure.2、3)、攻撃交渉、グリメイスなど様々な行動が観察できた。 α オスを個体追跡し、行動を記録した。データ量としては量が取れなかったが、グルーミングを行う時間がグルーミングを受けた時間よりもはるかに短く感じた。また、ほとんどの個体が近づいてきた α オスに対してグリメイスを行った。無人島かつ砂浜という開けた場所でのニホンザルの観察は大変有意義だった。 その後はGPSと白地図を用いて幸島内部をトレッキングした。幸島における最高標高地点を目標とし、先頭が交代で登山ルートを決めて列を牽引した。
■都井岬 都井岬にて御崎馬を観察した。出産の時期が近いということで多くの仔馬を見かけた(Figure.4、5)。馬の多くは黒茶色の毛色や体色だったが、数頭ほど金髪で栗色の体色を保つ個体を発見した。これは過去に流入した外国馬の血の影響が由来らしく、今では体色や髪色が明るいオスの個体は去勢することで野生馬にふさわしい体色や髪色の出現を維持しているとのことだった。天然記念物である御崎馬の管理や維持には人の手が欠かせないと思うが、果たして去勢することが正しいのだろうか。血の影響が広く残っていると考えると、馬の去勢はあまり効果がないような印象を受けた。しばらく散策したのち、前田氏によるドローンを用いた空からの馬の探索の様子を観察させていただいた(Figure.6)。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

■海岸林散策

幸島において蚊に複数箇所刺されてしまい、腫れ上がってしまった恐怖から海岸林の散策は参加せず砂浜の間を流れている小川に生息している小魚やカニなどを眺めていた。

■まとめ

今回の実習では野生の動物を観察するだけではなく、無人島での生活を体験することでフィールドワークの大変さ、難しさをまじまじと体感した。木々が生い茂る中でわずかな情報だけで個体識別をする難しさ、対象個体があまり見えない煩わしさは一番辛かったがよい経験になったと思う。

鈴木氏、杉浦准教授、前田氏には7日間大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

■写真など



Figure.1 上陸を出迎える幸島の猿たち

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



Figure.2 グルーミングの様子。岩の上のコドモザルがこちらを見ている。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

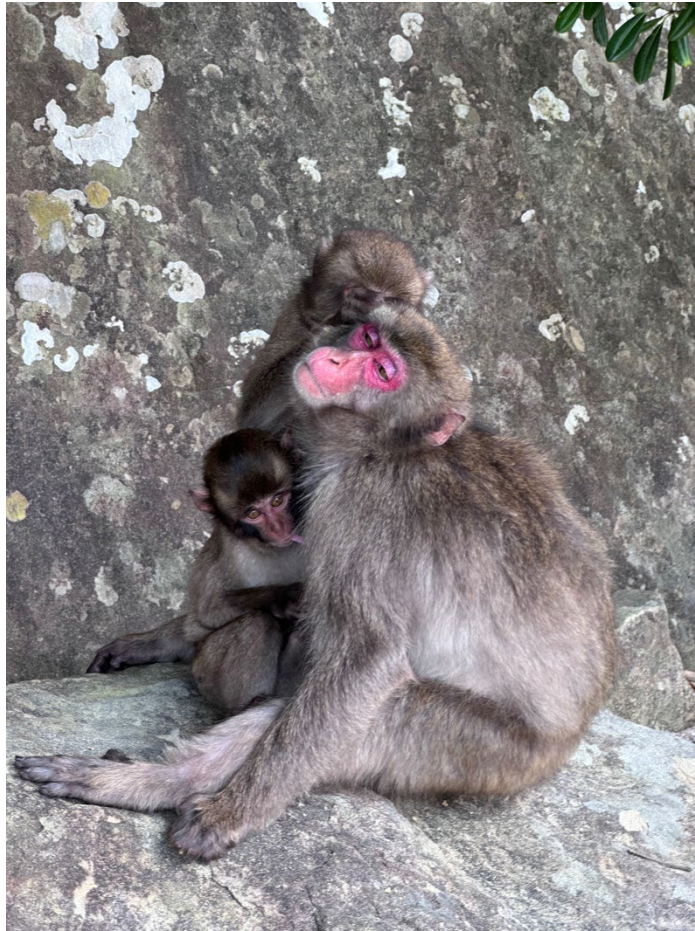


Figure.3 グルーミングの様子。グルーミングを受けている母猿のおっぱいを吸うコドモザル。



Figure.4 摂食中の母馬とその陰に隠れる仔馬。



Figure.5 摂食する馬たち。



Figure.6 起動直後のドローン。この後急上昇して地上からは見えなくなった。

■おまけ写真



観察所付近の稲田。夜間はタヌキやイノシシが出没する(した)。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



観察所でのご飯の例。人数分を用意するのは思いのほか大変だった。他にも写真を撮っておけばよかったが、疲れていてそれどころじゃなかった。



幸島の砂浜にて見かけたウミガメの死体。種不明。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



都井岬から眺める海。



観察所にて見つけたノコギリクワガタのメス。やはり九州南部は羽化も早いのだろうか。

6. その他 (特記事項など)

7日間の実習でお世話になった鈴木氏、杉浦准教授、前田氏には重ねてお礼申し上げます。